

## 第六期長期・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第5回実施分（令和4年11月28日開催） 自由記載欄

【傍聴者 会場5名・オンライン13名】

### ○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者6名記載）

- ・市の財政を支えているのは、具体的に分析するとどのような人々なのか？という問題提起は、今後の市政のありようを考える上で重要だと思います。
- ・KPIひとつとっても本格的に新しい取り組みにチャレンジするなら、策定委員と行政官の対話をより深めてほしいと思う。とりわけ策定委員の側の問題意識の共有、一致点の確認が必要なのではないのでしょうか？
- ・住民投票条例問題で「市民の意見が少ない」というような意見があった中で、今回、市民意識調査の回収率が下がったのは残念です。
- ・「評価」と「指標」との関係、考え方について。これまでの策定委員会には見られなかった人間性（ヒューマニズム）あふれる議論だった。武蔵野市の長計は、やはりこうした策定委員の議論のプロセスが素晴らしい。行政職員も、やり甲斐があると思う。頑張してほしい。
- ・「資料3 討議要綱素案(前半部分)」のp.15「5 第六期長期計画の実績」の西暦が間違っています(令和2年なのに2022年になっている)。もし会議内での訂正を聞き落としていたら申し訳ございません。
- ・委員の「コロナで取り組めなかった事については堂々と書いてよい」との意見に賛成です。また、正当な反論ならすべきという意見にも賛成です。
- ・委員の「討議要綱のタブロイド判は文字が多く読みにくいので、わかりやすくなるようにアンダーラインを引くなど工夫してはどうか？」という提案ですが、ともすれば「市がやりたいと思っている施策に民意を誘導している」と誤解や批判を招きかねないと危惧します。また、わかりやすくする事によって、物事の上っ面だけで議論されたり判断されたりするのではないかという懸念もあります。難しいですね。
- ・「施策評価の指標案一覧」について。「何をもってこの施策を評価したのか」を明らかにするのはとても良いことだと思います。指標の選び方や評価を積み上げていないなどの指摘についてはその通りですが、「どんな物差しを使って評価しているのか」がわからない評価を見てモヤモヤしていたことを

考えると、改善に向けて工夫をしていることに対し高く評価をしたいです。

- ・武蔵野市気候市民会議に参加させていただき、市政に興味をもち今回オンラインで傍聴させていただいた。中学生のころに武蔵野市の住民になり、途中で三鷹市に転出したが再び武蔵野市に戻って、気が付けば通算で25年市民となっているが、市政に参加したのは今年が初めてだ。それもこれも、オンラインでの参加を許容した市の姿勢のおかげだと思う。まさに、デジタル化の恩恵だ。本日の会議においては、武蔵野市職員のみならず、委員の先生方の調整計画策定にかける真しなご努力を画面を通じてうかがい、とても頼もしく、ありがたく思った。

さて、本日の会議の内容については、委員の先生方の発言に同感することばかりだった。

はじめに示された「市民意識調査」においては、調査結果の事実がならべられているが、それをどのように評価しようとしているのかわからなかった。委員が指摘するように、他市との比較でもできればよいのだろうが、それがかなわないとなれば、どのように結果を評価するのか。また、今回のアンケート結果を長期計画の調整政策におけるエビデンスとして、どのように使うつもりなのか、判断としなかった。次回以降の委員会において、市は分析結果を示し委員の先生方のレビューが行われることを期待する。

「施策評価の指標案一覧」も興味深かった。委員長がおっしゃるように、施策に定量評価をいれるというのは野心的な試みであるので、ぜひチャレンジいただきたい。また、どなたかが評価としては「幸福かどうか」になるとおっしゃっていたと思うが、それもその通りだと思う。デジタル庁はWell-Being指標の計測ツールを無償で提供している。荒川区では区民総幸福度指標を作成し平成25年から調査している。各施策の定量評価は難しいだろうと思うので、武蔵野市においても、他の自治体の事例を参考にして市民の幸福度を測るのがよいのではないだろうか？

計測方法は委員がおっしゃっていたが、デジタルの導入を検討すべきだと思う。アンケートのみならず、例えば道路やひろば、駅などの人流データの計測など、街の姿をデータ化し施策立案に生かすチャレンジは各地で始まっている。高齢者の健康寿命をのばすために、健診データの活用も始まっている。武蔵野市が、他の自治体に比べてデジタル技術の導入で劣後しないように、調整計画のなかでしっかりと指針を出していただきたい。

70歳以上の市民においては、デジタルでのアンケート回答が得にくいとの指摘があった。だから紙を使うというのは一つの回答だが、デジタルデバイドの救済策を施策としてたて、70歳以上の市民でもデジタル機器を使いこなすことができるように学習の場を行政が提供することを考えてもよいのではないだろうか？ 障害者からのアンケートはどのように収集するのか？ 外国人に多言語でアンケートを行うのはどうするのか？ これらを考えても紙よりもデジタルの方が利点が多いように思う。

最後に、とにかかくにも、素晴らしい委員の先生方のコメントと、それらに真摯に向き合う市職員の姿勢にとっても感心し、市民としてとても感謝していることをあらためてお伝えしたい。

- ・指標と評価は道のりは長くなるかもしれませんが、武蔵野市ならできます。頑張ってください。

- ・市民意識調査では今回「平和・多文化共生について」が入りました。p. 47 の問 28 では「学校教育の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて教える時間を設けること」が一番取り組むべきこととなっていました。今年度の開かれた学校づくり協議会で中島飛行機武蔵製作所が武蔵野市にあったこともあり平和教育を行ってはいかがかと提案しました。なんだかんだ言って拒否されました。市民意識調査でこんなにニーズがあるとは、学校ももう一度考えたほうがいいんじゃないだろうか。
- ・討議要綱（素案） p. 16 「実績」の 18 歳までの医療費助成は議会でも意見が別れたところで、実際にどうだったか評価を見てみたい。
- ・市民意識調査について 70 歳以上は紙での回答が優位とのことですが、それでも全体としてはデジタルでやるべきです。紙は転記エラーの元、転記もコストです。紙は紙がいいという人だけに補助的に使うほうがいい。
- ・討議要綱（素案） p. 5 「3（2）基本目標について 1）多様性を認め合う支え合いのまちづくり」多様性は「誰一人取り残さない」SDGs の根幹をなす重要な概念。「誰一人取り残さない」というキーワードを含めてはいかががでしょうか。
- ・討議要綱（素案） p. 5 「3（2）基本目標について 2）未来ある子どもたちが希望を持ち健やかに暮らせるまちづくり」子ども権利にあるキーワード「子どもにやさしいまち」という概念を含めてはいかががでしょうか。後、大人目線の文に感じる。
- ・六長調への子どもの意見はどうするか。少なくとも子ども分野は子どもの視点が必要。このままでは大人の子どもの像を押し付けることになる。
- ・不登校の子・いじめられてる子は武蔵野市の施策をどう評価しているか。
- ・学校評価アンケートも委員会で読み込むべきかも。学校運営は市の最大事業。
- ・施策評価に全国学テが入ってました。そもそも全国学テは比較するためのものではなし、全国学テ対策が行われているところがニュースになったり、SNS では対策してないところあるの？と言われるくらい学テは数字的な意味を持たない。もっと言うと、武蔵野市における学力の保障は学校ではなく塾。
- ・昨年度の予算特別委員会では不登校の人数が資料提供されていました。学校が安心できる場所でない指標ともなるし、画一的な学校から飛びたす多様性の指標とも取れます。
- ・不登校対策の施策評価はこんなのでいいのか。いじめ対策の施策評価は必要ないか。

- ・給食の供給能力の施策評価があるが、新桜堤調理場を設計する際に充足するように計算されているはず。

## ○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 (傍聴者6名記載)

- ・「指標」と「評価」のお話だけでも、やっと議論が本格化してきた感があります。自治基本条例の時もそうでしたが、策定委員の先生方に本当の意味でご意見頂くためにも、作業日程の調整/見直しを、ぜひ行って頂きたいと思いました。

コロナを経て、状況が大きく変わっている中、拙速な取り組みは、市民にとって不幸な結果を生んでしまうように感じます。(要するにデータを使った壮大な「アリバイ作り」ですよね)

- ・討議要項(素案)16ページの「2」子ども・教育の“子どもの権利条例の検討”部分は、文言が素案(子どもの権利条例)の記載と若干違う気がしました。例えば「学校」の部分は「育ち学ぶ施設」であって、学校に限らないと思います。そのような違和感を感じました。

- ・指標の中に、学力調査の結果は使ってほしくないです。他市を見ると、学力競争の対象になりかねない危惧を感じます。教育を数値化するのは難しいです。

- ・大学の研究者の方々が、“データ分析”、“実態把握”の“方法”について熱心であることはわかった。(担当職員は意識調査の事業を専門にしているわけではないのだということをご理解頂けているのでしょうか)将来的に「調査」というもののあり方を検討し直す必要を感じる。

- ・前回か前々回のアンケートで市民会議に参加されていた方が「市民会議委員は傍聴に来てくれるか?メールで声がけしては」という意見を出されていたと思います。私も市民会議委員でしたが、同じく興味があります。ちなみに3回ほど会場で傍聴しましたが2名の方と再会しました。ぜひ、市民会議委員・市民ワークショップ参加者(むさしの未来ワークショップ参加の中高生含む)に六長調策定の近況を知らせたり傍聴を呼びかけるメールを折々に送っていただけたら嬉しいです。

- ・今回と前回、家族と自身のコロナ感染のため会場での傍聴ができなかったのですが、オンラインで傍聴できたのは大変ありがたかったです。出席されている委員や職員のみなさまの心理的負担は決して軽くないと思いますが、武蔵野市の他の委員会でもオンライン傍聴システムを推進してほしいです。

(しかし、一部の市民を名乗るアカウントがSNS上に市議会の録画(静止画)をアップし誹謗中傷のコメントをつける等ネットモラルの低さを見るにつけ、遠い道のりだなとも思っています…)

- ・オンラインでの傍聴機会をいただきありがとうございました。武蔵野市が開かれた行政を行っていることに市民として喜びを感じますし、誇りに思います。ぜひ、これからもオンラインで広く公開する委員会を数多く実施いただきたいです。

- ・先日、「「もしかする価値観」との出会い——STEAM と D&I から広がる地平線——」というシンポジウムを視聴しました。武蔵野市も学校における多様性を大事にして合理的配慮を進めていきましょう。

9月の障害者権利条例に関する国連からの勧告でも普通学級における合理的配慮を保障することが求められています。この勧告後、インクルーシブ教育と特別支援教育に意見が分かれました。しかし、深堀すると両者はけっして異なることを言っているのではなくて、普通学級に合理的配慮がないことを共通の認識としていました。その上でどっちがいいという答えになっています。問題は普通学級に合理的配慮が無いことなんです。両者とも普通学級における合理的配慮が保障されることを望んでいるんじゃないでしょうか。

次に多様性。150年間続く大量生産型の教育では、元々あった多様性は画一化され、標準人間とそれ以外になってしまいます。もうそんなのやめましょう。D&Iで行きましょう。

(※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)